

北大形成外科

アカデミー

2015.5.9(sat) 16:20-18:15

北海道大学医学部フラテ会館ホール

Session 1

教育研修施設リポート

北見赤十字病院 形成外科

藤井 晓

時計台記念病院 形成外科

内山英祐

旭川厚生病院 形成外科

前田 拓

Session 2

北成賞2015受賞記念講演

〈臨床研究者部門〉

小山明彦

〈臨床研究者部門〉

林 利彦

〈臨床研究論文部門〉

前田 拓

〈基礎研究者部門〉

村尾尚規

Session 3

特別講演

聖マリアンナ医科大学 形成外科 教授

梶川明義



代 表： 山本有平

事 務 局： 北海道大学医学部形成外科学教室

〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目

e-mail : info@prs-hokudai.jp

運営委員長： 小山明彦



PROGRAM

Session 1

教育研修施設リポート

(16:20~17:05) 15分×3
Moderator : 舟山恵美

- ▶ 北見赤十字病院 形成外科
- ▶ 時計台記念病院 形成外科
- ▶ 旭川厚生病院 形成外科

藤井 晓
内山英祐
前田 拓

Session 2

北成賞2015受賞記念講演

(17:10~17:30) 5分×4
Moderator : 小山明彦

〈臨床研究者部門〉

小山明彦

北成賞を受賞し大変嬉しく思います。Annals of Plastic Surgeryに掲載された下記の論文は、北大から発表された口唇裂に関する初めての英文となります。

Minor-form/microform cleft lip repair: The importance of identification and utilization of cupid bow peak on the lateral lip. *Ann Plast Surg* 72: 47-49, 2014

このほか、教室から出された英文論文3編のcorrespondingを私がつとめさせていただいたことが、この度の受賞の理由となりましたので、それら素晴らしい仕事をされた執筆者の方々へ敬意と感謝の意を表し、謹んでこの栄誉ある賞を拝受したいと思います。

〈臨床研究者部門〉

林 利彦

このたび北成賞を受賞する栄誉を賜りましたこと、本当に感謝しております。ご協力していただいた皆様に深く御礼申し上げます。2014年に掲載された英文論文は以下の3編です。

1: Dominant lymph drainage in the upper extremity and upper trunk region: evaluation of lymph drainage in patients with skin melanomas. *Int J Clin Oncol.* 19(1): 193-7, 2014

2: An analysis of cheek reconstruction after tumor excision in melanoma patients. *J Craniofac Surg.* 25(2): e98-101. 2014

3: Flap Reconstruction in Two Patients with Rare Blood Coagulation Disorders. *European J Plast Surg.* 37(5): 297-300. 2014

今後も皮膚悪性腫瘍や再建外科学などの分野を中心とした新たな臨床研究への取り組みに努力していく所存です。

〈臨床研究論文部門〉

前田 拓

Combination of Tessier clefts 3 and 4: Case report of a rare anomaly with 12 years' follow-up. *J Craniomaxillofac Surg* 42: 1985-1989, 2014

このたび臨床研究論文部門の栄誉に与りましたことを大変うれしく思います。直接ご指導していただいた小山明彦先生に御礼申し上げます。そしてこの論文執筆は北大形成外科の長い歴史とめぐまれた環境があつてなし得たことであり、北大形成外科の同門の先輩方、教室を主催されている山本教授、そして教室員の皆さんに御礼申し上げます。本論文は、Tessier cleft 3と4を合併症した、治療が非常に困難であった症例のcase reportです。この授賞を励みに、さらにがんばっていきたいと思います。

〈基礎研究論文部門〉

村尾尚規

Treg-enriched CD4+ T cells attenuate collagen synthesis in keloid fibroblasts. *Exp Dermatol* 23: 266-271, 2014

「研究は奇跡の連続です」

私が大学で基礎研究を開始したと聞きつけ、MITに留学していた友人から送られてきた手紙はこう締めくくられていきました。

「つまり、なかなかうまくいかない、ということです」

果たして私はその言葉の意味を痛感し苦汁を嘗め続ける羽目になりましたが、周囲の有形無形のサポートにより最終的に論文がアクセプトされ本賞を受賞することができたのです。

教室の皆様ほか全ての関係者に深謝します。

Session 3

特別講演

(17:30~18:15) 45分
Moderator : 山本有平

「Aesthetic Reconstruction

- QOL改善のために -」

聖マリアンナ医科大学 形成外科 梶川明義 教授

形成外科の大きな役割の一つにreconstructionがあります。私も長年、頭頸部や乳房の再建を仕事の中心にして来ました。Reconstructionではマイクロサーダージャリーなどによる組織移植が中心になりますが、再建しても再建部がどうしても目立ち、結局、患者さんが手術した部分を隠さなければ生活できないというが多くあります。患者さんが再建部を見せることができない、再建部を隠したくなるというのでは、残念です。患者さんのQOL改善のために、何とかして再建したことを目立たなくしてあげたい。ただ塞ぐだけの再建ではなく、より美しい再建を目指し、私がこれまで考案してきた術式について紹介致します。

【学歴・職歴】

1984年 新潟大学医学部卒業
1984年 新潟大学 整形外科（形成外科診療班）研修医
1987年 東京大学形成外科 医員
1991年 燐津市立総合病院 形成外科 医長
1993年 東京大学形成外科 助手
1995年 同愛記念病院 形成外科 科長
1996年 医学博士取得（東京大学）
1998年 福島県立医科大学 形成外科 講師
2004年 同 上 助（准）教授
2013年 聖マリアンナ医科大学 形成外科 教授



【役職】

日本形成外科学会 評議員・専門医認定委員会委員
日本マイクロサーダージャリー学会 評議員・編集委員
日本頭蓋頸顔面外科学会 代議員
日本創傷外科学会 評議員
日本形成外科手技学会 理事
日本乳房オンコプラスティックサーダージャリー学会 理事・編集委員長
その他 国際形成外科学会、日本頭頸部癌学会、日本乳癌学会、日本熱傷学会会員

【おもな研究】

下顎頭軟骨の成長制御機構に関する実験的研究
橈側前腕皮弁の静脈還流に関する研究
橈骨動脈採取による手の血行動態変化に関する研究
その他 形成外科手術開発